



# 地方独立行政法人 大牟田市立病院

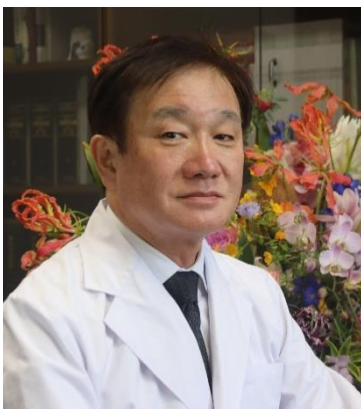
## 令和9年度採用 初期臨床研修医募集要項



## 目次

1. 臨床研修を始める皆さんに・・・・・・・・・・P1
2. 診療体制・実績・・・・・・・・・・P2
3. 施設・・・・・・・・・・P5
4. 沿革・・・・・・・・・・P6
5. 地域医療への貢献・・・・・・・・・・P7
6. 初期臨床研修について・・・・・・・・・・P9
7. 指導医からのメッセージ・・・・・・・・・・P13
8. 研修医の声・・・・・・・・・・P14
9. 研修中の行事例・・・・・・・・・・P19
10. 募集要項と処遇・・・・・・・・・・P20
11. アクセス・・・・・・・・・・P22

# 1. 臨床研修を始める皆さんに



大牟田市立病院は、1985年に医師法第16条に基づく臨床研修病院として厚生大臣指定を受け、その後は、一貫して研修医～専門指導医のペアで、実地臨床研修を行ってきました。現在も当院医師の半数が専門科指導医資格を有しています。さらに現行の初期臨床研修制度に移行した後も卒後初期研修のほか、専門科入局～卒後5年目程までの若い医師が大勢勤務しています。このため異なる診療科間でも全く垣根が無く、常に幅広い研修が行えるのが当院の特徴と言えます。

医師にとって「病院」で初期研修を行う目的の一つは、色々な職種のスタッフとチームを組んで、あるいは協働して医療を行うというトレーニングにあります。他職種の専門分野を理解し、どういう援助が求められるか、そして協働した医療行為には互いのコミュニケーションが如何に重要か、学ぶことは数多くあります。プロは、プロによって、プロとして育てられるのが、最良の方法と言えます。

二つ目の研修目的は、経験と判断力を積み上げていくことです。経験と学習に裏付けられた判断力こそ、医療現場の即戦力となるものです。しかし、慌てる必要はありません。特に最初の2年間は、専門医師になるための助走期間ととらえてください。基本的な分野で研鑽を積み、基礎固めを行うことこそ、長い医師生活を送っていく上で最も重要なこととなります。そのためには、プライマリー疾患を多く経験すると同時に、単なる診断・治療ではなく、一つ一つの診療行為の持つ意味、すなわちリスクと効果を応用出来るようになることが重要です。

大牟田市立病院には、基本的疾患の豊富な経験、良い指導医に巡り会うチャンス、プロとして育てられる厳しさ、そして何よりも研修医個人の向上心を持続させる教育的な包容力が備わっています。ぜひ、この体制を十分に活用して、医師としての第一歩を踏み出してください。

地方独立行政法人大牟田市立病院  
理事長・院長 鳥村 拓司

## 2. 大牟田市立病院の診療体制・実績

高度で専門的な医療を提供する地域の急性期病院です。

特に、

☆地域がん診療連携拠点病院

☆災害拠点病院

☆地域医療支援病院

であり、地域のくらしを支えている病院です。

### 【病床数】 320床（一般病床）

（ 救急病棟20床、腎センター（透析）18床、  
外来化学療法センター8床 ）

### 【診療体制】（令和8年4月1日現在） 29診療科

内科、消化器内科、内視鏡内科、腫瘍内科、血液内科、内分泌・代謝内科、  
循環器内科、腎臓内科、外科、消化器外科、腫瘍外科、呼吸器外科、  
血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、脳・血管内科、麻酔科、  
精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、  
リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科

### 【救急体制】 24時間、365日体制です

当直体制：救急系、内科系、外科系、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、  
看護師、小児科（週2回の地域輪番救急当直）※すべて専用当直室あり  
拘束バックアップ：内科、外科、循環器内科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科、小児科

### 【職員数】（令和8年4月1日現在）

医師：64人（臨床研修医を含む）うち女性医師11人

初期臨床研修医：5人（たすきがけ研修医1人含む）

後期臨床研修医（卒後3~5年目）：14人

（ 内科5人、外科2人、整形外科1人、脳神経外科1人、  
麻酔科1人、産婦人科2人、皮膚科1人、  
病理診断科1人 ）

指導医（卒後7年目以上、指導医講習会受講済み）：31人

内科10人、  
外科4人、整形外科1人、脳神経外科3人、皮膚科1人、泌尿器科1人、  
小児科4人、産婦人科2人、  
放射線科1人、放射線治療科1人、病理診断科1人、救急科1人、麻酔科1人

看護職：284人

認定看護師：10人

（救急2人、感染管理2人、集中ケア1人、皮膚・排泄ケア1人、がん化学療法1人、認知症看護1人、手術看護1人、緩和ケア1人）

医療技術職：105人

事務職：60人

## 【業務実績】（令和7年度）

延べ外来患者数：年間97,688人（1日平均403.7人）

延べ入院患者数：年間82,999人（1日平均227.4人）

救急患者数：年間4,764人

救急車搬入：年間2,308件

年間手術件数：2,869件

その他検査等：内視鏡検査件数（上部下部）3,676件、消化管透視618件、  
CT検査11,351件、MRI検査4,084件、  
DSA血管造影・治療95件、  
放射線治療（リニアック）3,248件、  
病理組織検査3,381件、細胞診2,643件

分娩件数：年間72件

平均在院日数：10.9日

紹介率：1033%

健診センター：年間健診受診者4,010人

## 【施設認定など】

### 施設認定

- 保険医療機関
- 地域がん診療連携拠点病院
- 厚労省外国医師等の臨床修練指定病院
- 救急告示病院
- 日本医療機能評価機構認定病院
- 地域医療支援病院
- 厚労省臨床研修指定病院
- 災害拠点病院
- 開放型病院
- 久留米大学医学部教育関連病院

### 学会認定

- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- 日本循環器学会循環器専門医研修施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本脳神経外科学会専門医研修施設
- 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- 日本臨床細胞学会施設
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 日本脈管学会認定研修関連施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
- 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- 日本脳卒中学会認定研修教育病院
- 日本高血圧学会専門医認定施設
- 日本透析医学会教育関連施設
- 日本病理学会研修登録施設
- 日本腎臓学会認定教育施設
- 日本手外科学会研修施設
- 日本医学放射線学会認定研修施設

### その他

- 身体障害者福祉法指定医療機関
- 自立支援医療機関【精神通院医療】
- 生活保護法指定医療機関
- 労災保険指定医療機関
- 国民健康保険診療取扱機関
- 指定養育医療機関（未熟児養育医療）
- 産科医療補償制度加入医療機関
- 指定難病医療機関
- 自立支援医療機関【更生医療・育成医療】
- 助産施設指定医療機関
- 母体保護法指定医療機関
- 原爆被爆者指定医療機関
- 社会保険各法指定医療機関
- 結核指定医療機関
- 肝疾患専門医療機関
- 指定小児慢性特定疾病医療機関

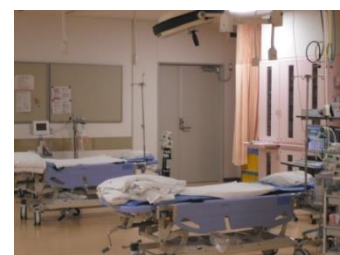
### 3. 施設

地域基幹研修病院として、最新の医療設備・医療機器を備えています。

#### ▼手術支援ロボット：令和5年「DaVinci Xi」導入



#### ▼救急外来：平成28年3月に拡充し、充実した救急医療ができるようになりました。



#### ▼内視鏡センター：消化管の他、肝・胆・膵疾患と幅広い診断・治療に対応しています。



#### ▼放射線診断（320列CT、MRI、アンギオ等）・治療機器



## 4. 沿革

昭和12年	大牟田市診療所として開院
昭和25年	大牟田市立病院と改称
昭和54年	24時間365日の救急体制開始
昭和60年	臨床研修病院として厚生大臣指定 久留米大学関連研修病院として正式に臨床研修開始
昭和61年	自治体立優良病院として自治大臣表彰
昭和63年	外国医師等の臨床修練に係る病院として厚生大臣指定
平成 7年	現在地に総工費150億円で新築移転（400床） 大牟田市立総合病院と改称
平成11年	日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定（初回） 災害拠点病院に指定
平成15年	地域がん診療拠点病院として厚労省指定
平成16年	初期臨床研修病院として全国マッチングでの臨床研修開始 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（2回目） 全科全領域の電子カルテシステム導入 400床を350床に減床（在院期間短縮にて） 代わりに、腎センター増床、外来化学療法センター、健診センター増設 消化器病センター設置、外科、麻酔科外来の移転増設
平成19年	院外処方箋発行に移行
平成20年	地域がん診療連携拠点病院として指定更新 急性期病院包括医療DPCに移行 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（3回目）
平成22年4月	「地方独立行政法人大牟田市立病院」となる 一般病棟7:1看護体制開始
平成23年	電子カルテシステム更新 院内託児所開所 医学生・看護学生奨学金貸付金制度創設
平成24年	「地域医療支援病院」として福岡県承認
平成25年	日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（4回目）
平成27年	内視鏡センター設置
平成28年	救急外来拡充
平成29年	自治体立優良病院両協議会会長表彰受賞
平成30年	自治体立優良病院総務大臣表彰受賞 全国公立病院連盟会員病院表彰受賞 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（5回目）
令和2年4月	350床を320床に減床
令和6年	日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（6回目）

## 5. 地域医療への貢献

大牟田市立病院は、地域医療へ貢献するため、様々な活動を行っています。

災害拠点病院としてDMATを編成。熊本地震の際に出動しました。その他、JMATとして北部九州豪雨災害の際にも出動しました。



毎年、緩和ケア研修会を開催しています。

臨床病理カンファレンス（CPC）隔月開催  
臨床がんカンファレンス（CCC）隔月開催



患者さん向けの健康教室として市民公開講座を開催しています。

毎年、数回行う市民公開講座。多くの市民の方が、聴講されます。

大牟田市立病院  
第77回市民公開講座

知ってほしい腎臓のこと  
～慢性腎臓病から腎臓を守る～

講師：一瀬 理恵（看護師）

日時：令和5年12月13日（水）  
開始：15時～1時間程度  
開場：14時30分

場所：大会議室 2階エレベーター付近

**受講料 無料**  
事前予約不要

自慢より他院の診療科に力を任せまい  
あつたうございます。  
風邪症状のある方、体調が優れない方  
ご来場はお断りさせていただきます。

当日は受付にて健康チェックを行います。  
ご入場をお断りする場合がございます。  
あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先>  
大牟田市立病院 総務企画課

大牟田市立病院  
第80回市民公開講座

あなたの医療費自己負担額  
はいくらになる？  
～高額療養費制度を中心に～

講師：患者総合支援部 地域医療連携室長  
北地 晴彦（医療福祉相談員）

日時：令和6年3月22日（金）  
講演時間：午後3時00分～1時間程度  
開場時間：午後2時30分～

場所：大会議室

**受講料 無料**  
事前予約不要

自慢より他院の診療科に力を任せまい  
あつたうございます。  
風邪症状のある方、体調が優れない方  
ご来場はお断りさせていただきます。

当日は受付にて健康チェックを行います。  
ご入場をお断りする場合がございます。  
あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先>  
大牟田市立病院 総務企画課 0944-03-1061（代表）

救急蘇生講習会では、地域の医療機関の医療従事者に研修を行っており、多くの市民の方が、聴講されます。



平成30年6月21日（木）「平成30年度自治体立優良病院総務大臣表彰」を受賞しました。

この「自治体立優良病院表彰制度」は、全国の自治体病院の経営の健全化への改善努力の成果や地域医療の確保への多大な貢献や取り組みを表彰するもので、「自治体立優良病院両協議会会長表彰」とその上位表彰となる「総務大臣表彰」の2つの賞がありますが、今回の受賞は昨年の「自治体立優良病院両協議会会長表彰」に続く受賞となりました。

受賞の理由としては、当院が地域において救急医療や高度・専門医療を提供している点や、他の医療機関との連携を推進している点が評価されるとともに、経営的にも長年に亘り黒字経営を継続できていることが評価され受賞に至りました。



## 6. 初期臨床研修について

### 【当院における初期臨床研修の特徴】

- 有明医療圏で最も多くの診療科を有する急性期病院であり、プライマリ・ケアを豊富に経験できること
- 地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、地域医療支援病院に認定されており、幅広い研修ができること
- 協力病院（久留米大学病院、米の山病院、筑後市立病院、有明医療センター）の初期臨床研修医も当院で研修を行っており情報交換ができること

【研修プログラム】プライマリ・ケアの基本的診療能力（態度・技能・知識）を習得します

### 1年次：

4 週	8 週	12 週	24 週		
			12 週	8 週	4 週
救急 (麻酔科)	麻酔科 ・週 1 日救急科 (並行研修)	外科 ・後半 8 週は週 1 日救急科 (並行研修) ・週 1 日一般外科外来	内科 ・週 1 日一般内科外来	循環器内科	腎臓内科

※救急科研修は麻酔科 4 週 + 麻酔科研修中は週 1 日並行研修

### 2年次：

4 週	4 週	4 週	4 週	32 週
地域医療 (大牟田共立 病院)	精神科 (三池病院)	小児科 ・週 1 日外来	産婦人科	選択科 ・週 1 日救急科 (並行研修)

※救急科研修は選択科研修中に週 1 日 並行研修

【主なカンファレンス・レクチャー】担当医としてプレゼンテーションも行います。

#### ①症例カンファレンス：(研修医を対象としたカンファレンス)

研修医が実際に経験した症例を病歴、身体所見及び初期検査を重視して、研修医及び指導医が自由に質疑・応答を行う過程で、プライマリ・ケアの診療能力とプレゼンテーション能力向上を目指す。また、他の研修医の経験症例を共有することで将来の自己の実地診療に活かすことを目標とします。

#### ②当直帯の患者受入れに係る症例検討会：(平日 8 : 15～8 : 30)

#### ③臨床病理カンファレンス (CPC)：奇数月第 2 火曜日 19 時～

#### ④臨床がんカンファレンス (CCC)：偶数月第 2 火曜日 19 時～

#### ⑤院内ミニレクチャー：各診療科による研修医を対象としたミニレクチャー (年 22 回)

#### ⑥大牟田消化器研究会：年 4 回

- ⑦大牟田神経アーベント：年 6 回
- ⑧大牟田呼吸器カンファレンス：年 4 回
- ⑨その他：多くの診療科でカンファレンスが開催されています

### 【院内で資格および受講可能な研修】

- ICLS 研修：年数回実施しており、インストラクターの資格も取得可能
- 緩和ケア研修：初期臨床研修医の間に受講します
- 感染に関する研修：年 2 回以上
- 医療安全研修：年 2 回以上
- 医療倫理研修：年 2 回以上
- 病理解剖について：常勤の病理医の下で、病理解剖時には介助医として参加できます。

### 【その他】

- **病理解剖**：常勤病理医の下で、介助医として参加します。
- **学会参加・発表、病歴要約など**：  
くまもと県北病院、有明医療センター、米の山病院と合同で開催している有明地区合同研修医カンファレンスにて症例発表を行います。  
その他、院内外での発表を経験し、将来必要となる各種学会専門医取得に必要な病歴要約や学会発表、症例報告、論文作成をサポートします。学会・研究会への参加費用および旅費支給制度もあります。
- **新・専門医制度への対応**  
新・専門医制度における 19 の基本領域のうち、13 の基本領域において久留米大学病院および聖マリア病院の連携施設となっています。  
13 の基本領域：内科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理診断科
- **災害医療への参加**  
研修医も JMAT として 2017 年九州北部豪雨災害、2018 年西日本豪雨災害に参加しました。災害拠点病院としての活動に参加できます。
- **チーム医療**  
呼吸器チーム、感染対策チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなどチーム医療も充実しており、より専門的な医療を習得できます。
- **学習環境・生活環境**  
学習環境：  
\*机、インターネット用無線 LAN、棚は全員に完備しています。  
\*医療情報は院内図書室以外での閲覧以外に、院内 LAN 環境とインターネット環境を利用した電子書籍で多くの洋雑誌や教科書を閲覧できます。  
生活環境：  
\*更衣室・仮眠室も充実しています。  
\*子育て応援宣言企業として結婚・妊娠・出産にも対応できる研修をサポート

しています。

\*希望者は病院宿舎（無料駐車場あり）も利用できます。

\*夏季休暇、年次休暇、産休、育休などの休暇を利用して仕事以外の生活も充実できるようにサポートしています。

\*大牟田は、穏やかな気候に恵まれ、過ごしやすい自然環境に加え、美味しい食材も豊富です。

▶ 病院見学は随時実施しております。ご希望の際は下記までご連絡ください。

連絡先：0944-53-1061（人事課）

Email：[jinji@ghp.omuta.fukuoka.jp](mailto:jinji@ghp.omuta.fukuoka.jp)

当院で研修を修了した初期臨床研修医：平成16年度～令和7年度

◇ 当院プログラムでの2年間初期臨床研修医（基幹型研修医） 計39名  
出身大学：久留米大学、鹿児島大学、九州大学、佐賀大学、産業医科大学  
山口大学、熊本大学、日本医科大学、帝京大学、東海大学、  
福岡大学、長崎大学

◇ 研修協力病院としての初期臨床研修医（協力型研修医） 計198名  
久留米大学病院（久留米市）  
米の山病院（大牟田市）  
筑後市立病院（筑後市）  
有明医療センター（荒尾市）

● 広々とした医局はインターネット用無線LANが完備され、研修医にも机と本棚が貸与されます。



●症例カンファレンス



●有明地区合同研修医カンファレンス（毎年9月開催）



**医局全体で、臨床研修医をサポートします！**



## 7. 指導医（プログラム責任者）からのメッセージ

【プログラム責任者】

伊藤 貴彦（救急科部長）



当院は、福岡の最南端の大牟田市に位置し医療圏は有明医療圏と呼ばれ、有明海を囲む熊本県北部から柳川市辺りまでをカバーする場所に位置します。ベッド数 320 床の急性期病院です。年間救急車搬送件数は約 2,000 件で緊急手術・緊急処置などを必要とする場合も多くあります。各科専門医の先生を始め若手の先生も多く在籍し、当院のような中核病院の特徴である、「科の垣根」を越えて治療に当たることもあり、そのような環境下での研修は多くの学びがあるのではと思います。

研修医の受け入れは、基幹型研修病院としては毎年 2 名の受け入れですが、協力型研修病院としては、久留米大学病院、筑後市立病院、米の山病院、荒尾市立有明医療センター（熊本県）より多数の研修医の受け入れを行っており、各病院の研修医がお互いにより刺激を受けていると思います。また、当院で研修修了後、各科の専門医を目指す先生方も在籍しており、研修中・研修後の相談を行ったり、将来像がイメージしやすい環境かと思います。

初期臨床研修の 2 年間は医師として社会人として先生方の今後に大きく影響する期間と思います。当院で研修を行い、各分野で大きく羽ばたいていただければと思います。

## 8. 研修医の声

### 【2年間の初期臨床研修を終えて】

初期臨床研修医（令和5年度採用）西山 佳佑



研修医としての2年間を終え、振り返ると本当に多くのことを経験し、学ぶことができた実感しています。私は大牟田出身で、地域医療に貢献したいという思いからこの病院を選びましたが、実際の研修では想像以上に幅広い分野に触れることができました。特に救急や内科の研修では、最前線で患者さんと向き合う責任の重さを痛感しつつも、大きなやりがいを感じる場面が多かったです。

内科で印象に残っているのは、糖尿病の教育入院の一例です。60代の女性で、これまでかかりつけ医の受診歴はなく、軽度のめまいとふらつきを主訴に当院を受診されました。検査の結果、糖尿病、高血圧、脂質異常症が判明し、高血圧緊急症による症状と判断しました。しかし、患者さんは「薬は高い」「飲み始めたらやめられなくなる」といった理由で、すぐには薬物治療の導入に応じてくれませんでした。それでも毎日病室を訪れ、病状や治療の必要性について丁寧に話を重ねた結果、最終的にはSGLT-2阻害薬、GLP-1受容体作動薬、ARB、スタチンを開始することができました。退院後の外来では、外来主治医の先生から「西山先生があまりにも熱心に説明してくれたから、薬を飲まないといけないと思って病院に通うようになった」と言われたと聞き、患者さんの意識を変えることができたのだと嬉しく感じました。この経験を通じて、国家試験とは違い、医学的な正解が必ずしも患者さんにとっての正解ではないこと、そして、それでも患者さんと向き合い続けることの重要性を学びました。

救急で印象に残っているのは、初めての当直での症例です。研修医になって5日目くらいの当直で、交通事故の救急搬送を対応することになりました。何をすればよいのか全く分からず、緊張で体が硬直していましたが、指導医の先生に「膝の皮下出血を押さえて」と指示され、看護師の方々のサポートを受けながら圧迫止血を行いました。当時はそれが精一杯でしたが、今振り返ると、動脈血採血やCTオーダー、FASTなど、医師としてすべきことはまだまだあったと痛感します。しかし、この経験を通じ

て、一人で完結する医療はなく、チーム医療の中で成長していくのだということを強く実感しました。

指導医の先生方は非常に熱心で、手技に関しても内視鏡検査やCVなど、多くの経験を積むことができました。特に、毎週木曜日の救急科研修では、いわゆる屋根瓦式の教育体制がとられており、1年目も2年目も最前線で経験を積める環境が整っています。

また、この病院の研修の特徴の一つは、オンとオフがはっきりしていることです。忙しい時期には勤務時間を超えることもありますが、休みの日に呼び出されることはほぼありません。看護師やコメディカルの方々とも関係が良好で、飲み会なども無理のない範囲で誘っていただき、同期がいなかった私にとってはよい発散の場となりました。

もちろん、研修生活は楽しいことばかりではなく、時には厳しい場面もありました。当直明けの疲労、知識不足を痛感する瞬間、コンサルトの未熟さを指摘されること、思うようにいかない診療……。しかし、そうした経験を乗り越えるたびに、自分の中に少しずつ自信が積み重なっていくのを感じました。

2年間の研修を通して、医師としての基盤だけでなく、社会人としての基盤や患者さん・医療チームとの向き合い方も身につけることができたと思います。これから研修先を考えている医学生の皆さんへ。もし「実践的な研修がしたい」「指導医と密に関わりながら学びたい」と思っているなら、この病院はとても良い環境です。私自身、この病院での研修を通して多くのことを学び、大きく成長することができました。ぜひ、一度見学に来てみてください！

## 【2年間の初期臨床研修を終えて】

初期臨床研修医（令和6年度採用） 阿比留 美紀

大牟田市立病院で初期研修医として2年間勤務させていただきました。周囲の環境に恵まれ、大変有意義な2年を過ごすことができました。これまで関わっていただいたすべての先生方、コメディカルの皆様に心より感謝申し上げます。

当院は研修医の人数が他の病院と比べると少ないですが、だからこそ上級医からの直接的なご指導のもと、様々な経験をさせていただきました。基本的に1つの診療科を1人の研修医でローテーションするため、初期研修医として経験すべき症例や手技は豊富な経験を積むことができたと感じています。

また、学術的経験を積む環境が大学病院に劣らず整っており、この2年間で九州地方会に加え、国際学会での症例発表の経験をさせていただきました。現在は上級医の指導のもと、論文作成に取り組んでいます。医学生時代から、研究や大学院進学に興味のあった私にとっては絶好の機会であったと思っています。

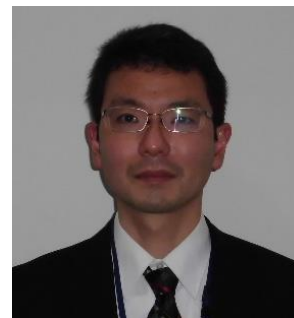
たくさんの素晴らしい指導医の先生方との出会いは、私の医師人生で何よりの財産となりました。来年からは専攻医として、2年間で学んだことを糧に精一杯頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。



## 【1年間の研修を終えて】

初期臨床研修医（令和7年度採用）齊藤 貴之

振り返ればつい先日まで、私の日常は机に向かって教科書を開き、国家試験合格を目指すだけの日々だったように思います。しかし、医師免許を手にした瞬間からその景色は一変しました。毎日多くの患者さんに対して、自らの手で医療を提供する「責任」が伴うのです。



正直に言えば、当初は恐怖との戦いでした。

「自分の未熟さが患者さんに不利益を及ぼすのではないか」という不安から、どうしても臆病になり、周囲に気後れしてしまう瞬間が多々ありました。

そんな私を変えたのは、ある当直の夜の言葉です。「失敗を恐れて何もしなければミスは起きないが、医師としての成長もありえない」――。たとえ自信がなくても、技術が未熟でも、まずは「私にやらせて下さい」と手を挙げる。その勇気が自分を成長させる唯一の鍵だと信じ、それからは貪欲に機会を求めようになりました。

指導医の先生方は、そんな私の拙い意欲を汲み取り、数多くの手技に挑戦させてくれました。その経験の積み重ねが、少しずつ私の自信へと繋がっていったのです。

そしてある日、救急搬送された幼児の処置にあたった時のこと。今にも泣き出しそうな患児を前に、指導医の先生は「やってみようか」と私の背中を押しました。幼児の細い血管に目を凝らしルート確保を試みるものの、苦戦する私。先生は、私が手こずることを予見していたはずですが、それでもあえて私に挑戦させ、その場ですぐに実践的なコツを伝授してくれました。

その時、研修医とは「見習い」であり、最初から一人で完璧である必要はないのだと痛感しました。大切なのは、指導医を信じて周囲のスタッフを頼り、まずは見よう見まねでも必死に食らいつく姿勢です。自分一人で抱え込まず、周囲の助けを借りながら最善を尽くす――。それが結果として患者さんのためになり、自分の糧となるのです。

この一年で得た小さな自信と、忘れてはならない謙虚さを胸に、二年目の研修も全力で取り組んでいきたいと思っています。

## 【1年間の研修を終えて】

初期臨床研修医（令和7年度採用） 牟田 侑世

研修医としての1年を振り返ると、毎日が新しい発見と学びの連続でした。目の前の業務に追われる中では、自分の成長を実感する余裕がなく、時には己の無力さを感じることもありました。しかし、1年という時間の流れの中で振り返ってみると、確実にできることは増え、医師としての基盤は少しずつ築けてきたことを実感します。



研修医として働き始めた頃は何もできなかった自分が、この1年で一連の入院指示や内服薬処方を行うことができるようになり、とりわけ手技の面では大きな成長がありました。ルート確保やAライン確保、気管挿管、CV穿刺、腰椎穿刺、小外科処置に至るまで、経験を重ねる中で自ら考えながら実施できるようになり、成功体験を積み重ねることで自信にもつながりました。

もちろん、こうした成長は自分一人の力では決して成し得ませんでした。指導医の先生方や先輩医師の的確な助言と温かいサポート、そして看護師をはじめとする他職種の方々の協力があってこそ、安心して挑戦し、学び続けることができたのだと思います。このような恵まれた環境で研修できていることに改めて感謝します。

残り1年間もこの環境に甘えることなく、一つ一つの経験を大切にしながら、より主体的に学び、医師としてさらに成長できるように精進していきたいと思います。

## 9. 研修中の行事例



## 10. 募集要項と処遇

### < 募集要項 >

応募資格	令和 9 年度医師免許取得予定者及び平成 16 年以降に医師免許を取得した者で、令和 8 年度医師臨床研修マッチングに参加登録する者。 なお、地域卒の学生の方は、当院での臨床研修が認められるかご確認の上、ご応募ください。
募集人数	2 名
採用予定日	令和 9 年 4 月 1 日
研修期間	2 年間
選考方法	面接、小論文
出願書類	履歴書(市販の書式で可)、成績証明書、 共用試験医学系 CBT 個人別成績表(写)、 卒業見込証明書または卒業証明書
選考日	令和 8 年 7 月下旬～令和 8 年 9 月中旬の期間で応募者と調整の上、決定
出願締切日	令和 8 年 8 月 31 日(予定)※消印有効 出願書類送付および問合せ先:人事課 〒836—8567 福岡県大牟田市宝坂町 2 丁目 19 番 1 号 TEL 0944-53-1061 E-mail jinji@ghp.omuta.fukuoka.jp * 病院見学は随時実施しております。遠慮なくご相談ください。

### < 処遇 >

身 分	研修医(常勤)
月 給 等	1 年次 353,190 円 2 年次 375,860 円 * 別途、通勤手当、住居手当等支給あり 副直手当(15,000 円/回)、通勤手当(月額上限 55,000 円)、 住居手当(月額上限 27,000 円)、時間外勤務手当
賞 与	あり(年間 4.15 月分) <モデル年収(給与+賞与+副直手当)> 1 年次・・・約 589 万円、2 年次・・・約 652 万円 ※副直手当(月 4 回で計算した場合)
勤 務 時 間	午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分 * 指導医の下で、週 1 回程度の当直(副直)あり
休 暇	土曜日、日曜日、祝日、年末年始 その他各種休暇あり(年次有給休暇、夏季休暇、服喪休暇等)

社会保険	各種社会保険加入（福岡県市町村職員共済組合、雇用保険、厚生年金、労災保険）
健康管理	採用時健診、定期健診、歯科健診など
宿 舎	あり(3LDK・・・月額 10,500 円、シェアハウス・・・月額 3,000 円～4,000 円、水道光熱費別途、駐車場あり) ※宿舎の空室状況により、入居できない場合は、ご相談させていただきます。
医師賠償責任保険	病院で包括加入
研修支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会、研究会参加：参加費用および旅費支給制度あり （当院規定による支給）</li> <li>・資格取得：当院にてICLSコースおよび緩和ケア研修会受講可能</li> <li>・図書室：蔵書・雑誌タイトル多数、文献検索ツール・電子ジャーナル完備 ※24時間利用可能</li> <li>・研修医各自に机、棚、ロッカーあり</li> <li>・仮眠室あり</li> </ul>

# 11. アクセス

